

鶴岡市民俗芸能交流発表会

鶴岡市内各地域で連綿と受け継がれ、守り伝えてきた民俗芸能を舞手の思いとともに皆様にお届けします

くろかわのう

黒川能 [国重要無形民俗文化財]

黒川能上座・下座／黒川地区

黒川能は、山形県鶴岡市黒川にある春日神社の「神事能」として、氏子たちによって継承されてきました。

この能楽は、世阿弥が大成した後の猿楽能の流れをくみ、現在の五流（観世・宝生・金春・金剛・喜多）と同系ですが、いずれの流儀にも属せずに独自の伝承を続け、演式、演目などに古式を残していると言われています。

約240戸の春日神社の氏子が、上座と下座の2つの座に分かれて能座を形成しており、それぞれの座は能太夫でもある座長を中心に、能役者は舞方、囃子方、狂言方を含め、子どもから長老まで約150人、能面250点、能装束500点以上、演目数は能500番以上、狂言50番と、民俗芸能としては非常に大きな規模となっています。

500年以上にわたり、黒川の人々の信仰心と能楽への愛着によって、幾多の困難を乗り越えながら今日まで守り伝えられ、現在は、各祭礼において奉仕、奉納上演の他、黒川能保存会を通し依頼を受けて、海外や全国各地で公演も行っています。

おおやま

まき

大山いざや巻

大山いざや巻保存会／大山地区

今から500年ほど前（天文元年1532年）、当時の尾浦（現在の大山）を統治していた武藤家三代目城主播磨守盛氏の時代に教え広められたのが始まりです。拍子木と唄上げに合わせて踊り手たちが「せりふ」を交えながら踊るもので、当地にふさわしく人情細やかに洗練されて上品に唄われ、現在は子ども達への伝承のため「キッズ華の会」も結成され練習に励んでいます。

さんのうさま

ししまい

山王様の獅子舞

日枝神社獅子舞講中／山王町

起源は天正年中（1573～93）に疫病や強盗が流行し、大宝寺村の宮侍の先祖供養と悪事退散の為、笛・太鼓で町中を巡回して疫病を祓い除いたことに由来します。

現在会員数は9名で活動しており、子ども達用に小さい軽い獅子頭を作成して教えるなど後継者育成も見据えた取り組み、また、積極的に外部上演も行っており役者のモチベーションの高揚につなげています。

ろくしょじんじゃ

ししまい

六所神社獅子舞

六所神社獅子舞保存会／青龍寺地区

金峯山の麓、青龍寺集落に鎮座する六所神社の獅子舞。

神社所蔵の六つの獅子頭は県指定有形文化財に指定されており最古のものが南北朝期の正平6年（1351年）であることから歴史ある獅子舞であることが分かります。

昭和40年に保存会が結成されて以来、舞手の育成等保存継承につとめています。

か も とまりまち だいこくまい

加茂泊町大黒舞

加茂泊町大黒舞保存会／加茂地区

泊町は古くから日本海航路の港として繁栄したことを背景に廻船の乗組員などが多く居住していました。もとは1月11日の船霊（玉）様の祭り、1月14日のセイの神、その他歳祝いや新築した家の座敷などで上演していました。10数名の唄い衆の歌に合わせて、左に大黒、右に恵比須と並び左まわりにゆっくりと、大黒は小槌と扇子を振りながら、また恵比須は鯛の造物を取り付けた鈴竿を持って釣り上げる所作をしながら舞います。

